

# 相談室だより くろさき苑 2019年6月

くろさき苑 支援相談員 瀬戸口 朋円

皆さんこんにちは。6月の相談室だよりは、くろさき苑の瀬戸口が更新させていただきます。大牟田は梅雨入りも中々せず、雨が降っているのか降っていないのか良くわからない天気が続いています。最近、自宅にて前日に作った味噌汁を食べましたところ、お腹を壊しトイレにこもっておりました。毎年料理が常温で置いておけなくなると、またこの季節がやってきたと一人感じております。皆様も暖かい時期や、梅雨時期は特に食中毒に十分お気をつけ下さい。

今回は最近参加した、研修について感じた事を書かせていただきます。

皆様は『パーソン・センタード・ケア』という言葉をご存知でしょうか？私は知りません。『パーソン・センタード・ケア』とは1980年代に英国の心理学者、トム・キッドウッド教授によって提唱された、認知症高齢者を一人の人として尊重し『その人の視点や立場に立って理解しながらケアを行う』という認知症ケアにおける考え方の一つ、、、との事です。この研修に参加し、ある入居者の事を思い出していました。

90代の女性 認知症自立度Ⅲa 認知症（認知症の診断名なし）

病院より老健入所。食事に関して希望が強く、食事変更を繰り返し行っていました。変更が続くので、変更前に本人に確認し変更を行っても、『こんかかたか飯ば出してから』→食事変更→『こんかやわかとは飯やなか』と興奮される事も多くなり、栄養科へ怒鳴り込む事もありました。『食事内容は私達が決めているので、、、』と伝えるも納得されず、時には栄養科スタッフに噛み付かれる事もありました。息子様が洗濯物を取りに来られていたが、そんな本人を見られ、口論になっている場面も見かけており、面会も段々と少なくなっていました。

ある時の夜間帯、本人が『今何時ね？時間の進んどらんね、政府の仕業よ（毎晩言われていた言葉）』本人と『時間は政府ではどうにもできませんよ、、、』など、あーじゃない、こーじゃないと話をしている中、『さみしかとよ』と一言。

食事が食べにくい事であったりいろんな訴えをされていたが、家族と口論になり、面会も少なくなっていき、本人の中で『寂しい』との思いから、上手く伝えれない気持ちや、他に当たってしまったのではと感じました。

本人になる事はできないので、気持ちや理解をする事は中々難しくありますが、本人が表面的に言われている言葉だけでなく、その裏にはなにがあるのか考える事が大切だと研修に参加しながら、考えていました。

今後も退所支援や関わりを持つ中で、忘れないようにしていきたいと思います



## くろさき苑に新しい安心介護相談員が来られた！



『職員皆様のケア、対応が素晴らしく、利用者の方々の安心して生活されている声や姿をお見かけします。今後ともよろしくお願い致します。』

大牟田市安心介護相談員  
田崎カホル様

『利用者の方々と知り合いになり、仲良くできたらと思っています。訪問を行っている施設に対して悪い所を探すのではなく、良い所を沢山伝えていきたいと思っています。』

大牟田市安心介護相談員  
川村良子様



今年の4月より、新しく安心介護相談員として来苑される事になりました川村様、以前より来苑していただいています田崎様、日頃より大変貴重なご意見を伝えていただき誠にありがとうございます。私達では中々気づけない事も多くあり、これからもいろんなご意見や利用者の方の声や様子などお聞かせ下さい。

7月号へ続く

